

■耐震強度検討書（アンカーボルト）

1.機種 = 中温用パッケージエアコン 室外ユニット
 2.形名 = PU(Z)G-P3-4MHA13

3.機器諸元(下記参照)

(1)機器質量(運転質量) $w =$ 64 kg
 (2)アンカーボルト
 ①総本数 $N =$ 4 本
 ②サイズ・形状 $=M$ 10 形
 ③1本当たりの軸断面積(呼径による断面積) $A =$ 78 mm² = 78×10^{-6} m²
 ④機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルトの総本数 $N_t =$ 2 本
 (3)据付面より機器重心までの高さ $H_g =$ 323 mm = 0.323 m
 (4)検討する方向からみたボルトスパン $L =$ 370 mm = 0.370 m
 (5)検討する方向からみたボルト中心から機器重心までの距離 $L_g =$ 180 mm ($L_g \leq L/2$) = 0.180 m

4.検討計算(各項の小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

(1)設計用水平震度 設計用標準震度 $K_s =$ 1.0 $K_h = Z \cdot K_s =$ 1.0
 地域係数 $Z =$ 1.0
 (2)設計用鉛直震度 $K_v = K_h / 2 =$ 0.5
 (3)設計用水平地震力 $F_h = K_h \cdot w \cdot 9.8 =$ 627.2 N
 (4)設計用鉛直地震力 $F_v = K_v \cdot w \cdot 9.8 =$ 313.6 N
 (5)アンカーボルトの引抜力 $R_b = \frac{F_h \cdot H_g - (w \cdot 9.8 - F_v) \cdot L_g}{L \cdot N_t} =$ 197.5 N
 (6)アンカーボルトのせん断力 $Q = F_h / N =$ 156.8 N
 (7)アンカーボルトに生ずる応力度
 ①引張応力度 $\sigma = R_b / A =$ 2.5 MPa < ボルト(SS400)の許容引張応力 $f_t = 176.4$ MPa
 ②せん断応力度 $\tau = Q / A =$ 2.0 MPa < ボルト(SS400)の許容せん断応力 $f_s = 102$ MPa
 ③引張とせん断を同時に受ける場合 $f_{ts}' = 1.4f_t - 1.6\tau =$ 243.8 MPa
 ただし、 $f_{ts}' \leq f_t$ のとき $f_{ts} = f_{ts}'$ 、 $f_{ts}' > f_t$ のとき $f_{ts} = f_t$ であるので $f_{ts} =$ 176 MPa
 $\sigma =$ 2.5 MPa < $f_{ts} =$ 176 MPa
 (8)アンカーボルトの施工法
 ①アンカーボルトの施工法 = あと施工接着系アンカー
 ②コンクリートの厚さ = 120 mm = 0.120 m
 ③ボルトの埋込長さ = 80 mm = 0.070 m
 ④許容引抜荷重 $T_a =$ 7600 N > $R_b =$ 197.5 N

以上の検討結果によりアンカーボルトは十分なる強度を有する。

*ボルトの許容応力度およびアンカーボルトの引張許容引抜荷重は、『建築設備耐震設計・施工指針2014年度版』による。

